

第8章 地域の子育て環境づくり

第1節 【問題意識】 児童館を取り巻く地域の状況

調布市は、総人口が今後も増加しづけることが予想されているが、徐々に増加幅は縮小し、2024（平成37）年をピークに減少に転じると推計している。年少人口は2021（平成33）年をピークに減少に転じる見込みであり、児童館利用者の減少が懸念される。

また今後、特に高齢化率が上昇していくこともあり、人口減少・超高齢社会が到来することによって、医療・福祉などの社会保障関係経費の増大や、地域活力の低下など、多方面にわたり大きな影響を及ぼすことが懸念される。

安全・安心が叫ばれ、地域で自由に過ごすことができる子どもが減少している中、近年では、地域の大人と子どもの関係性が希薄化している。不審者と思われるのではないかと大人から挨拶や声をかけることを避けたり、子どもの側も「知らない人」に声をかけることは憚られる時代になった。

孤立した子育て家庭やつながりにくい困窮世帯など、課題を抱えた家庭も増えている。また、各地で頻発する災害の被災地では、地域コミュニティの必要性・重要性が多く語られている。しかし、地域共同体の崩壊は早く、地域における新たなコミュニティ形成が期待されている部分もある。

児童館は地域に密着した児童福祉施設として長らく活動してきた。それは、子どもの遊びと生活を支援するうえで、地域は必要不可欠な資源であると捉えられてきたからである。継続した利用が可能な施設特性から、多世代が交流することが容易であり、子どもの体験という面だけではなく、保護者と地域住民や、乳幼児と中高生など、普段の生活では生まれにくいつながりを生み出すことができる。また、ボランティアとしての参加が期待されている施設である。市民の積極的な参加・参画を促進することにより、地域での子ども・子育てに関心を持つ層を増やし、結果的に子どもや子育て家庭が生活しやすい環境を創り上げていくことも可能である。

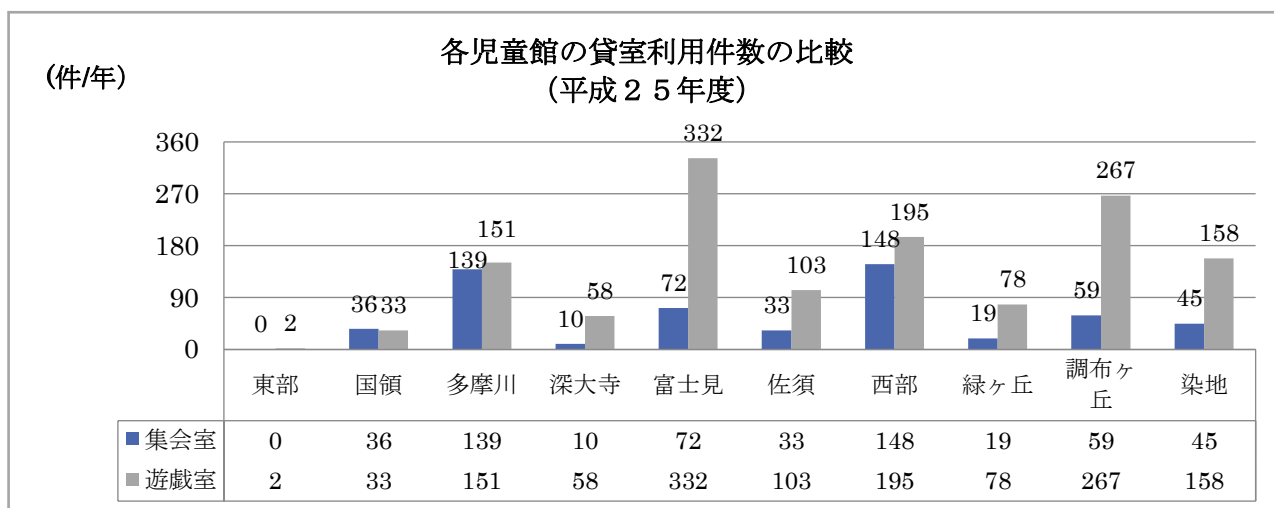
児童館が地域の有り様に変化していることを敏感に捉えて、戦略的に関わっていくことが肝要である。

第2節 【現状】 地域との連携の状況

調布市の児童館は開館以降、地域との連携を行ってきた。

	開館以降、地域の団体に無料で施設貸出
昭和60年	市制施行30周年こどもまつり ⇒ 平成元年まで実施
平成2年～	各児童館にて「児童館まつり」実施
平成8年	児童館運営会議の設置（緑ヶ丘、染地）
平成10年	全11児童館に児童館運営会議の設置完了

貸室の利用状況は次図のとおりである。遊戯室の利用の方が多い状況にある。



また、児童館では多様な地域の関係者と連携して事業を実施している。

会議体等	参加者・関係者・団体
児童館運営会議	健全育成団体，小学校，中学校，PTA，幼稚園，保育園，学童クラブ父母会，自治会，民営学童クラブ，ユーフオー等
児童館まつり実行委員会	健全育成団体，PTA，学童クラブ父母会，民営学童クラブ，ユーフオー，自治会等
乳幼児施設連絡会	保育園，幼稚園，保育ママ，民生児童委員，小児科，すこやか等
各種児童館事業	講師，支援スタッフ ³² ，自治会，近隣住民，学校等

特に児童館まつり実行委員会では、複数の地域（学区域）をまたいで、メンバーを呼びかけており、学校単位などではない、児童館でしかつながられない場面となっている。

また、児童館は地域の行事や会議に積極的に関与してきた。

地域の行事・取組への関与	ユーフオー・公園等への「あそびの出前」，桜まつり，盆踊り大会，地域運動会，もちつき，どんど焼き等
地域の会議	健全育成地区委員会定例会，地区協議会，要保護児童対策連絡協議会，学校協議委員会，乳幼児施設連絡会，ケース会議等

合わせて、地域支援や、健全育成環境づくりの観点から、児童館は館内外の健全育成活動や新たなコミュニティを生み出す機能を果たしてきた。これまでの具体例としては、幼児サークルで出逢った保護者同士が「人形劇サークル」を結成し、地域のイベントで活躍した事例や、和太鼓サークルの保護者が同好会として活動する中で、近隣小学校の音楽教員が参加することによって、和太鼓が学校の取組みへと発展するなど、多くの児童館活動が地域の文化的活動につながっており、このような児童館発のムーブメントは各地に点在している。次表はそれらの活動の一例である。

32) 各館で募っている地域住民によるボランティア。実費弁償程度の支給を行っている。

施設名	活動内容	時期	きっかけ・経過など	児童館との関わり（成果など）
上石原学 童保育所 （富士見 児童館）	くすのき少年 団（レクリエ ーション）	昭和 50 年 頃～	当時の保護者たちが、学 童クラブを卒所した後の 子どもたちのために、指 導員とともに地域の活動 の場を作った。	日常の児童館活動のほか、児童館まつり、運営 会議にも参加している。
国領児童 館	こいのぼりま つり	平成 6 年～	全館事業で行っていたも のが開催することが困難 になり、健全育成推進国 領地区委員会で引き継ぐ ことになった。	健全育成推進委員会が主 となり継続。児童館もま つり当日に出店してお手 伝いしている。
国領児童 館	よさこいサー クル	平成 11 年 ～継続中	たづくりから、児童青少 年課に業務を委託され、 児童館で事業を開始し た。児童館職員が指導し、 その後全館事業として、 活動したが、自主サー クルに変更して活動した。	国領児童館を利用するの 練習、サークルのメン バーは支援スタッフ、講師 として児童館活動に協力 している。
緑ヶ丘児 童館 深大寺児 童館	和太鼓サー クル （6つ）	平成 5 年～ 平成 9 年～ 平成 15 年 ～ 平成 28 年 ～	サークル活動を終えた中 学生が自主サークル化し たほか、児童館職員やサ ークル活動を行っていた 児童の保護者がサークル 化し、現在も活動を行っ ている。	自主サークルのメン バーは、支援スタッフとし ての協力や子育てひろば での演奏、児童館を利用 しての練習などを継続し ている。
調布ヶ丘 児童館	フラダンスサ ークル（2つ）	平成 20 年 ～ 平成 24 年 ～	乳幼児保護者向けのフラ ダンス講座から発展し、 自主サークル化した。	現在は地域で自主的に活 動している。
東部児童 館	人形劇サー クル	平成 6 年頃 ～22 年	幼児サークルの保護者が サークルを発足し、10 年以上活動。	子育てひろばや児童館ま つりで上演していた。
つつじヶ 丘児童館	少年・少女合 唱サークル	昭和 45 年 ～平成 4 年	児童館のサークルで知り 合った仲間が立ち上げ た。高校生以上 OG の女 声合唱団も結成された。 平成になってから、会 員が減り活動を廃止した。	市の行事等で発表するな どしていた。

上記のほか、地域の関係機関との連携も行っている。特に福祉的課題への対応を行う際に、児童館が単独で動くのではなく、関係機関との連携により支援を展開している。例えば、虐待のケースでは、要保護児童地域対策協議会や民生委員と連携した対応を行ったり、不登校のケースでは、学校との相互理解の下に、児童館での支援を行ったりした。障害のある子どもの学童クラブ利用に向けての支援では、地域の関係機関やボランティアとの協働体制を生み出したこともあった。乳幼児の子育て支援では、助産師や市の保健師との連携や、子ども家庭支援センター「すこやか」と連携した対応がなされている。

第3節 【課題分析】地域との連携を実現するための児童館の基盤

前節までの地域の変化や課題を理解しつつ、児童館が抱える課題を整理したい。

①関係団体との更なる連携が期待されている。しかし、職員は異動があるため、関係性構築に時間がかかる。これは児童館側だけではなく、地域側も感じていることである。

②学校との連携は学校の体制等によって差がある。児童館としては学校との日常的な連携を期待しているため、所管課等と共に、積極的に良好な関係を構築していく努力が必要とされる。

③児童館の役割として、子どもと地域住民の橋渡しが必要である。職員が地域の活動に参加する中で、児童の健全育成に関心のある人材を発掘する必要がある。また、NPOや民間企業等との協働も促進する必要がある。

④職員の中には、福祉的課題（貧困・虐待・不登校等）への支援体制や方法に不安を感じている。その背景として考えられるのは、職員のスキルの問題である。ソーシャルワークを駆使し、課題解決へ導いていく職員人材の育成が必要である。また、児童館の性質上、来館していない子ども・家庭への関わりは難しい状況にある。合わせて体制上、子どもの貧困対策等の新たなニーズに即応しづらいこともある。

⑤ますます子どもを中心としたネットワーク形成が求められる。地域の人は個々にはつながっている。これを有機的なネットワークにしていく必要性がある。また、当事者である子どもや子育て中の保護者に関与してもらうことも課題である。

⑥地域の中での児童館の理解が進んでいない。地域との関係構築の前提となるため、児童館の理解を進めることが重要な活動となる。

第4節 地域とともにある児童館の将来像に求められる機能・役割

地域とともにある児童館として、いかに連携を進めていくのか、またどのように地域の健全育成環境を整えていくのか、求められる機能・役割について議論をおこなった。

<地域ニーズを的確に把握することが求められる。>

児童館では、乳幼児施設連絡会を立ち上げるなど、地域にある子ども・子育てに関する情報や課題の共有を積極的に図る体制づくりをおこなっている。また、児童館運営会議や地区協議会への参加などをますます有機的なものとして、ニーズを把握することが必要となる。これにより、事業や相談対応に応用していくことができる。

<児童館が仕掛けた、あるいは支援してきた地域活動が各地に根付いている。>

地域のつながりが希薄化するなか、児童館が生み出していく新たなコミュニティは、地域や関わる個人を活性化させる意味で大変重要であるため、この機能は維持して欲しい。

また、市民による子ども・子育て支援活動を支援するために、児童館設備を最大限活用できるようにして欲しい。その際、市民に児童館の機能・役割について理解してもらった上で、児童館活動に影響のない範囲での利用が望まれる。また、児童館を利用する子どもたちとの交流等を意識的に展開してもらうような配慮が求められる。

<児童館側からの働きかけと地域住民のニーズ把握による事業展開の必要性>

市民の気づきから生まれる活動を後押しし、今後新たに発生する地域課題に対して市民が対応することを、児童館は側面的に支援することができるのではないか。そのことが地域の支援者を育てていくことにもつながる。

<課題に対応する地域のネットワークへの関与が期待される。>

既存組織・団体との連携はもちろんのこと、時代に合わせて新たに生まれているネットワークや関係機関、専門職との連携が期待されている。調布市で配置している地域福祉コーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー)との連携が今後必要とされる。

<子ども・子育てに関わることは未来のまちづくりにつながる。>

子どもや子育て家庭に対してやさしいまちをつくることは、全ての人にとって住みやすいまちにつながる可能性がある。そこに当事者である子ども・子育て中の保護者を包み込んでいき、支援の対象者と支援者というような二分された状態ではなく、対等な関係性を構築する努力が欲しい。

これらから、地域とともにある児童館に求められる機能・役割としては、以下の5点に整理した。

- 身近な子ども・子育ての相談窓口
- 地域住民と利用者(子ども・保護者)の交流促進
- 地域住民の子ども・子育て支援活動の支援
- 多様な課題に対応する地域のネットワーク形成
- 子どもと子育て家庭を包み込むまちづくり

また、そのために必要な「地域・関係機関との関わり」「職員の資質」「情報発信力」「施設・設備」について次図のようにまとめた。

「地域とともにある児童館の将来像」に求められる機能・役割

児童館に求められる機能・役割

- 身近な子ども・子育ての相談窓口
- 地域住民と利用者（子ども・保護者）の交流促進
- 地域住民の子ども・子育て支援活動の支援
- 多様な課題に対応する地域のネットワーク形成
- 子どもと子育て家庭を包み込むまちづくり

そのために必要な・・・

地域・関係機関との関わり

- 子どもの育ちと子育てに関する地域のニーズを把握する
- 市民の参加と協働を生み出す
- 児童館と地域・関係機関が連携できるような関係性をつくる
- （設置要綱に基づく）児童館運営会議を活性化させる

職員の資質

- コーディネーターとしてのスキル（ニーズを受け止める、子ども支援スタッフやボランティア等の募集、情報収集、調整・紹介、学びの機会づくり、プログラム開発、記録、情報発信等）
- 地域の関係者との有機的なネットワーキング
- 参加と協働を生み出すファシリテーション

情報発信力

- 多様な情報媒体の活用
- 市民による情報発信の支援
- 子どもの参加を得た情報発信
- 直営館としての安定的かつ公平な情報発信に向けた情報収集・編集
- 連携する団体・機関との情報共有のあり方についての検討

施設・設備

- 子どもたちの活動に影響の無い範囲での集会室・遊戯室等の貸し出し（継続）
- 児童館の保有する設備・備品等の貸し出し（継続）
- 児童館を有効活用した行事等の開催

